



小栗栖だより

No. 13

被災地「想い」が届くことを願って…



今年の元旦に起きた「令和6年能登半島地震」から早くも1ヶ月が経ちました。未だ行方不明の方がおられるとともに多数の方が避難所生活を余儀なくされています。ようやく小学校が3学期をスタートすることができたというニュースもありましたが、「平常」に戻るのはまだまだ先のようです。地震での災害だけでなく、もともと北陸地方の寒さや雪による被害などがある地域ですから、避難生活に追い打ちをかける状況にもなっているようです。



直接現地に足を運んで災害のボランティア活動を行っている人も多数おられます、交通渋滞などで現地に入れないなど、もどかしい気持ちの方もおられます。

そんな中、小栗栖中学校の生徒会のメンバーが立ち上がり、現地に行くことはできないけれど、何か自分たちにできることは無いか?と考えて募金活動を行うことになりました。登校時に校門前で募金活動をするわけですが、それだけでは足りないのでは?と思い、さらに、街頭に出て取り組むことを考えてくれました。石田駅、六地蔵駅、MOMOなど色々なところが候補にあがりましたが、最終的にパセオ・ダイゴローの連絡協付近ということに決定しました。その決定の背景には、12月に行った支部生徒会交流会の中で、他校の生徒会役員の生徒たちと交流する中で、お互いに協力しながら山科醍醐支部を盛り上げていこうという方向性になっていたことです。小栗栖中学校1校でできることは限られていますが、醍醐4校(醍醐中・春日丘中・栗陵中・小栗栖中)が合同で取り組むことで「大きな支援の輪」に繋げようという想いです。

まず小栗栖中学校生徒会が1月15日から一週間登校時に、1月28日にパセオ・ダイゴローで募金活動を行いました。登校時の1週間は、雪が舞ったり、雨が降ったりと毎朝大変寒い中にもかかわらず熱心に取り組むことができました。また、パセオ・ダイゴローでは、見知らぬ人たちに懸命に声掛けすることにより、たくさんの共感していただいた方から募金をしていただきました。「ご苦労さん」「がんばってや」「自分はこれくらいしかできひんけど役に立てば」と次々に声を掛けていただき、中には「ありがとう」と募金をしてくださった方からお礼を言ってもらうという貴重な経験ができました。足を止め、通り過ぎて戻ってきて協力いただいたみなさんに感謝しています。



「募金箱が重い!」と途中、一端空にするという作業が必要なほどでした。「オレ、小栗栖中学校の卒業生やねん。後輩がこんなことしてくれているのは嬉しいわ」と感謝してもらうことも…

みなさん心のどこかに「自分も何かしたい」という想いがあり、頑張っている中学生を見て託されたのだと思います。この「重い想い」しっかり受け止め、2月2日に行われる4校合同の募金活動に臨みたいと思います。

なお、集まったお金は日本赤十字社京都府支部を通じて現地に役立ててもらう予定です。被災地に早く「福」が来れば良いのですが…。

受検シーズン本番…

2月に入り、いよいよ受検シーズンも本番となります。10日の京阪神私学入試を皮切りに公立前期、さらに効率中期へと続いていきます。インフルエンザはもちろんまだコロナも心配です。万全の体調で臨めるよう健康管理に努めてください。1・2年生はまだまだ思わず、必ずやってくる自分の順番に向けて、少しづつ心構えをしていくことが進路実現への近道だと思います。



<2月の予定>

2月 1日 (木)	小さな巨匠展 (京都市美術館別館)
～4日 (日)	
7日 (水)	地生連総会 19時～
8日 (木)	はなぶさ保育園との交流 (1組)
10日 (金)	京阪神私学入試 ～12日 (日)
15日 (木)	公立前期選抜 ～16日 (金)
20日 (火)	定期考查⑤ (1・2年)
	～22日 (木)

